

夏目漱石

イヅムの功過

イズムの功過

たいていのイズムとか主義とかいうものは無数の事実
きちようめんを几帳面な男が束にして頭ひきだしの抽出へ入れやすいように
こしら拵こしらえてくれたものである。一纏ひとまとめにきちりと片付かたづいて
 いる代りには、出すのが臆劫おっくうになったり、解ほどくのに手数
 がかゝったりするので、いざという場合には間に合わな
 いことが多い。たいていのイズムはこの点において、実
 生活上の行為を直接に支配するために作られたる指南車しなんしや
 というよりは、吾人ごじんの知識欲を充たすための統一函とういつぱこであ

る。文章ではなくって字引である。

同時に多くのイズムは、零碎の類例が、比較的緻密な頭脳に濾過ろかされて凝結した時に取る一種の形である。形といわんよりはむしろ輪廓である。中味なかみのないものである。中味を棄すてて輪廓だけを畳たみ込むのは、天保銭てんぼうせんを脊負う代りに紙幣を懐ふところにすると同じく小さな人間として軽便だからである。

この意味においてイズムは会社の決算報告に比較すべきものである。さらに生徒の学年成績に匹敵すべきものである。わずか一行の数字の裏面に、わずか二位の得点

の背景にほとんど有りの儘まには繰返くりかえしがたき、多くの時と事と人間と、その人間の努力と悲喜と成敗とが潜ひそんでいる。

したがってイズムはすでに経過せる事実を土台として成立するものである。過去を総束するものである。経験の歴史を簡略にするものである。与えられたる事実の輪廓である。型である。この型をもつて未来に臨むのは、天の展開する未来の内容を、人の頭で拵こしらえた器もりに盛おおせようと、あらかじめ待ち設けると一般である。器械いど的な自然界の現象のうち、もつとも単調な重複いどを厭いとわざ

るものには、すぐこの型を応用して実生活の便宜を計ることができるかもしれない。科学者の研究が未来に反射するというのはこのためである。しかし人間精神上の生活において、吾人がもし一イズムに支配されんとするとき、吾人はすぐに与えられたる輪廓のために生存するの苦痛を感じずるものである。単に与えられたる輪廓の方便として生存するのは、形骸のために器械の用をなすと一般だからである。その時わが精神の発展が自個天然の法則に遵したがって、自己に眞実なる輪廓を、みずからに付与し得ざる屈辱を憤いきどおることさえある。

精神がこの屈辱を感じるとき、吾人はこれを過去の輪廓がまさに崩れんとする前兆と見る。未来に引き延ばしがたきものを引き延ばしてむりにあるいは盲目的に利用せんとしたる罪過と見る。

過去はこれらのイズムによって支配せられたるがゆえに、これからもまたこのイズムに支配せられざるべからずと臆断おくだんして、一短期の過程より得たる輪廓を胸に蔵して、すべてを断ぜんとするものは、升ますを抱いだいて高さを計り、かねて長さを量らんとするがごとき暴挙である。

自然主義なるものが起つてすでに五六年になる。これ

を口にする人は皆それぐの根拠あつてのことと思う。
わが知る限りにおいては、またわが了解し得たる限りに
おいては（了解し得ざる論議はしばらく措おいて）必ずし
も非難すべき点ばかりはない。けれども自然主義もまた
一つのイズムである。人生上芸術上、ともに一種の因果
によつて、西洋に発展した歴史の断面を、輪廓にして舶
載した品物である。吾人がこの輪廓の中味を充じゆうじん物する
ために生きているのでないことは明かである。吾人の活
力発展の内容が、自然にこの輪廓を描いた時、はじめて
自然主義に意義が生ずるのである。

一般の世間は自然主義を嫌きらっている。自然主義者はこれを永久の真理のごとくにいいなして吾人生活の全面に涉わたって強しいんとしつゝある。自然主義者にして今少し手強く、また今少し根気よく猛進したなら、みずから覆くつがえるの未来を早めつゝあることに気がつくだろう。人生の全局面を蔽おおう大輪廓を描いて、未来をその中に追い込もうとするよりも、茫漠ぼうぼくたる輪廓中の一小片を堅固に把持はして、そこに自然主義の恒久を認識してもらおうほうが彼等のために得策ではなからうかと思う。

(明治四三・七・二三)

日本文学電子図書館

イズムの功過

著 者 夏目漱石

制作者 宮澤一郎

底 本 「漱石全集 第8巻」角川書店
昭和42年10月10日5版発行

日本文学電子図書館